「おこしやす　古都の息吹を　はんなりと
～笑顔でつなぐ　京の絆・今日の絆～」をスローガンに

「第14回商工会女性部 全国大会in京都」開催

平成24年10月16日、全国商工会女性部連合会・京都府商工会女性部連合会の共催により「第14回商工会女性部全国大会in京都」が、国立京都国際会館で開催された。

大会は、芸妓・舞妓のオープニング演舞により幕を開け、大会旗が入場、開催地の松井惠子京都府商工会女性部連合会会長が「新たな京都を発見し、深い絆を結んでお帰りいただければ幸いです」と2600余名の参加者を歓迎し、開会のあいさつを述べた。

その後、末武栄子全国商工会女性部連合会会長の主催者あいさつに続いて、大会に駆け付けた鈴木正徳中小企業庁長官をはじめ来賓から、女性部に対する労いや期待の込めた心温まる祝辞があった。

大会では、主張発表大会や市田ひろみ氏（服飾評論家・エッセイスト）による基調講演などが行われ、参加者は資質向上を図るとともに、地域に貢献する女性部としての役割や使命を再認識する大会となった。

翌10月17日は、京都府内の商工会地域を3つのエリアに分けて、地元女性部員が設置した「おもてなし会場」を中心に移動研修を行い、大勢の参加者で賑わった。

●●大会会長あいさつ●●

末武栄子全国商工会女性部連合会会長

大勢のご来賓の方々がご臨席のもと、本大会が盛大に開催できますことを心から厚くお礼申し上げます。

平成23年3月の東日本大震災以降、本年度も九州北部の豪雨など自然災害に見舞われた地域が数多くあります。1日も早い復興をお祈りいたします。これまでの支援活動を通じて感じたことは、女性部の「優しさ」「あたたかさ」「絆の強さ」です。

女性部では、全国統一事業として500円玉募金を3年間継続し、東北の復興を応援していきましょう！と呼びかけ、本年度も4100万円を超える募金が集まりました。ご協力ありがとうございました。

本年度から、豊かなまち（地域）づくりのため積極的に事業に取り組んでいる女性部の功績を称えるべく、全国大会で「まち（地域）づくり顕彰」を実施することにしました。また、新規事業として「おもてなし交流事業」にも取り組んでいます。ぜひ参考にしていただき、より一層魅力ある女性部づくりに励んでいただきたいと思います。

●●祝辞●●

鈴木正徳中小企業庁官

腹が据わっていて実行力があるのは女性です。鈴木家も同じです。約2600名の方々と意見交換でき、主張発表を聞けるのが大変楽しみです。女性部の活動については中小企業庁も全面的に支援していくつもりです。女性部の活動なくして日本の再生もできないと考えております。

ぜひとも今日と明日の大会が大きな起爆剤となることを祈念して祝辞といたします。

山田啓二京都府知事（代理：太田昇京都府副知事）

商工会女性部の皆様におかれましては、地域の商工業の振興・発展や社会福祉の増進の担い手として、創業や経営革新への取り組み、さらには東日本大震災で被災された方々への支援等、幅広い活動を積極的に展開していることに敬意を表します。

京都を満喫し、明日の糧としていただきたいと思います。

近藤永太郎京都府議会議長（代理：小巻實司京都府議会副議長）

本日お集まりの方々には、おもてなしの心など地域の特性を活かした女性ならではの事業を展開していただいています。今後ともその大きな力を発揮し、日本を元気にする原動力としてご活躍を期待しています。

門川大作京都市長

女性が輝けば地域が輝く、職場が輝く、日本が輝く。私たちも女性の活躍を期待しています。市役所も女性の力で活性化したいと考え、昨年4月1日付で係長以上の女性は43・2%、3年前の23%から一気に増やし、女性がどんどん活躍できるようにしています。

北神圭朗衆議院議員内閣総理大臣補佐官

日本の活力は皆さん女性にかかっています。これは政府全体の今後の成長戦略の中にも位置付けています。一説には約342万人の女性が社会進出を望んでいると言われており、この方々を国がサポートし、社会進出できるよう頑張っていきたいと思います。

竹内譲衆議院議員

女性の時代です。肉食女子、草食男子という言葉もありますが、女性の知恵とアイデアと行動力がなければ日本は成り立たないと言っても過言ではありません。デフレの脱却、原因など色々言われますが、女性の力を活かし切っていないことが最大の原因と思います。

松村祥史参議院議員・全国商工会連合会顧問

女性部の皆さんの活力は日本の活力になってまいります。その証拠に鈴木長官が女性部の心をつかむ祝辞を述べられていました。普段の国会答弁とは全然違いました。それだけ女性部の皆さんに対する期待が大きいのだとあらためて思います。

渡辺猛之参議院議員・全国商工会連合会顧問

私も鈴木長官のこのような話は初めて聞きました。商工会女性部の話は中小企業庁でどんどん受け入れられると思います。松村議員と私が今日出席した意義を考えますと、やはり鈴木長官の話の証人ということだと思います。

石澤義文全国商工会連合会会長あいさつ

全国連は全組織をあげて復興支援を行うことにしております。10億円に達する義援金を頂戴しましたが、全女性連は独自事業として「5000円玉募金」を行い、24年には4000万円を超えたと聞きました。全国連の会長として女性連のこの事業を誇りに思っています。触発されて青年部も募金活動を展開することになりました。大震災は不幸な出来事ですが、我々は多くのことを学びました。それは我々の組織結集の力です。

沖田康彦京都府商工会連合会会長（京丹後市商工会会長）あいさつ

京都は奈良県境から日本海まで色々な楽しみ方があります。全国の商工会女性部の皆様方、我々商工会は皆様のサポートで大いに助かっています。ぜひとも女性部の皆様が青年部の皆様とタッグを組んで商工会を一層盛り上げていただきたいと思います。

●●主張発表大会●●

最優秀賞

関東ブロック代表

女性部活動と地域振興・まちづくり

キャラクター「さくらゆいちゃん」に思いを託して

静岡県 由比町商工会女性部 理事 **望月 利江**

私たちの住む由比は、平成20年11月の市町村合併により、静岡市清水区由比になりました。由比地区は海と山が背中合わせの人口約9000人の小さな地域です。

合併して私たちが感じたことは、「街の中の活気がなくなって、このままじゃあ由比も忘れられちゃうよね」という寂しさでした。そんな中、平成21年5月、女性部の総会資料の表紙に由比町商工会のキャラクター「さくらゆいちゃん」の笑顔がありました。

「さくらゆいちゃん」は由比の特産・サクラエビの形をしたピンク色の帽子をかぶった笑顔のかわいい女の子のキャラクターです。部員から「さくらゆいちゃん」を由比地区のキャラクター・街の広告塔としてPRしていこうという意見が出され、あっという間にみんなの気持ちが一つになりました。

22年8月初め、待ちに待った「さくらゆいちゃん」のマスコットが商工会に届きました。「さくらゆいちゃん」のデビューは8月22日、恒例の商工夏祭りです。この年は商工会法施行50周年ということで、夏祭り前日の新聞が「さくらゆいちゃん」を大きく取り上げてくれ、250個も売れました。

私たちのキャラクター活動はまだまだ続きます。これからも、行政・各種団体・会員企業と様々な形で協力し合いながら、女性部の感性と「ゆい」の語源でもある「結ぶ心」で活動し、日本中にさくら色の絆をつなげていきたいと思います。

優秀賞（順不同）

東北・北海道ブロック代表

女性部活動と地域振興・まちづくり

あねさんパワーで、笑顔あふれる商店街

岩手県 雫石商工会女性部 部長 **谷地 たえ**

商店街は町の元気、何とか賑わいを取り戻したい！

―そんな思いで、私たち女性部にできることを模索した結果、店舗の軒先を使って、自分の店の商品や朝採り野菜、手作り菓子などを販売する「市」を立ち上げることにしました。その名も「あねさん市」です。

平成20年5月には、全女性連の「女性の創業等支援助成金」、雫石町の「ふるさと文化振興基金」の助成をいただき、商店街の空き店舗に雫石商工会女性部の店舗「しずくきらり☆」をオープンしました。10人も入れば一杯になる本当に小さな店ですが、毎週水曜日午前9時半から午後1時半までの4時間の営業で売上は常に10万円前後。いろいろな業種の集まりである女性部の強みを活かし、商品構成を工夫しています。元気な声が飛び交い、ひときわ賑やかな場所となっています。

中部ブロック代表

女性部活動と地域振興・まちづくり

まつりから元気を！ つなごう笑顔のバトン！

石川県 穴水町商工会女性部 部員 **舞谷 裕美**

平成19年3月25日、穴水町が震度6強を観測した能登半島地震に襲われてから5年の歳月が経ちました。当時、私たち女性部の〝命〟ともいえる店舗のほとんどが半壊状態でした。けれど、誰一人、店を閉めることなく商売を続けた私たちには、ある共通の強い思いがありました。

「町の中心である商店街がここで頑張らんかったら、この町はどうなる！」

「商売屋のかあちゃんらがどんな時も明るく笑っとれば、穴水町みんなが元気になるわ…」

その揺るぎない自信なんです。とにかく、みんな明るいのです。そんな女性部一人ひとりの復興にかける思いが、穴水町の今につながっています。

祭りから、町の復興をアピールする！―この思いがさらに一丸となるのが、毎年1月に行われる「雪中ジャンボかきまつり」です。今や人口1万人に満たない穴水町に、今年は土日2日間でなんと4万人のお客様がいらしてくださいました。世界農業遺産に選ばれた能登の里山・里海。そして、穴水といえば「まいもんの里」、〝牡蠣〟です。この牡蠣を使い、私たち女性部はかきめしを作り、販売しています。

かきめし作りには私たちのこだわりと熱い思いが込められています。かきまつりは、穴水を応援してくださった皆さんへの感謝の場であるからです。

近畿ブロック代表

女性部活動と地域振興・まちづくり
ビワマスを米原市の特産品に!!

滋賀県 米原市商工会女性部 部員 **福永富士子**

ビワマスは、天然ものでは琵琶湖にしか棲めない固有種で、「琵琶湖の宝石」「刺身はトロよりもうまい」ともいわれている高級魚です。しかし、近年では獲れる量もぐ～んと減り、かつて「ビワマスなしでは琵琶湖の味は語れない」とまでいわれたビワマスの存在感は薄れつつあります。

そこで、米原市行政も〝天の川ビワマス遡上プロジェクト〟を立ち上げ、米原市商工会と連携し、ビワマスを「米原ブランド」として、滋賀県水産課、米原市、滋賀県漁連とともに、一般家庭や学校給食に普及するよう様々な取り組みを推し進めています。

ビワマスは値段が高いので、たくさん使うことができません。どうしたらビワマスの美味しさを知っていただくことができて、値段も安く抑えられるのか？　スタッフの色々な意見やメニューの中で絞り込んだのが「ビワマスのさつまあげ」と「ビワマスの春巻き」でした。この2つの料理を何回も試作し、改善に改善を重ねて、県青年部・女性部連合会のイベントで出店しました。当日いただいたアンケートなどから、トータルの反省としてビワマス自体の認識がまだまだ低いことに気づかされました。「米原市」といえば「ビワマス」といわれるように、ビワマスを全国に知っていただく広報活動と連携しながら、特産品づくりを通じて米原市が活性化するように、私たち女性部も頑張っていきたいと思います。

中国・四国ブロック代表

女性部活動と地域振興・まちづくり
黒豆バーガーで地産地消！「キッチンくろまめ」営業中

岡山県 みまさか商工会女性部 部員 **岩谷美登里**

美作市は米や黒豆、お茶などの生産が盛んな地域です。この黒豆を使って何かできないかと考えていました。「何かちょっと変わったものができたらええなぁ」「他にないもんを考えようや」などと話すうちに、試行錯誤が始まりました。

平成20年、商工会で特産品コンテストを開催するというので、さっそく私たちが考案した「黒豆ジャム」を応募したところ、賞をいただきました。その頃、全国でB級グルメがもてはやされ、私たちも「黒豆を使ってご当地バーガーを作ってみようや」と試作品を作りました。

試行錯誤を重ねながら完成した黒豆バーガーを、夏の花火大会に50個限定で販売しました。その後、大阪の千里中央駅や産直市場のイベントでも完売し、これは売れるかもしれない！とさらに改良を加えて本格的に商品化を目指し、製造と販売ができる「キッチンくろまめ」もオープンしました。

マスコミにも取り上げられるようになり、そして昨年12月にはついに東京進出、昨年の開店から1年で、約1万個のバーガーと1万5000個の調理パンを売ることができたのです。

九州ブロック代表

女性部活動と地域振興・まちづくり
愛される街づくりを目指して

佐賀県 基山町商工会女性部 副部長 **羽根　洋子**

平成22年、私たち女性部に国営吉野ヶ里歴史公園のある吉野ヶ里町から軽トラ市への出店のお誘いがありました。部員の中には片道20キロも離れた場所での出店に反対する方もおりましたが、行動を起こすことで何か見えてくるものがあるかもしれないと出店を決意しました。

部員全員が町の宣伝部隊になったつもりで軽トラ市で売る商品の選定や人員計画を立て、3月の第1日曜日、軽トラ市がスタートしました。毎月行われる軽トラ市は、女性部にとってかけがえのない事業になっていきました。

町のために女性部として何ができるかという思いが強まり、町の方々から昔の写真をご提供いただいて、1000枚もの写真を集めた「思い出のフォトギャラリー」を開催しました。

何より嬉しかったのは、最高のイベントをつくりだそうという熱い思いが商店街の人たちと私たちの心を一つにしたことです。

今も昔も変わらない人と人との絆がここにある。それはずっと続いているんだな～と心から思いました。基山町に賑わいを取り戻したい私たちの思いがここに実を結び、商売の原点をあらためて確認した瞬間でもありました。行動に移したことで返ってきた感動は、一生の宝です。